

人を引きつけるようなデザインから生み出された製品を探ると、県内にも独自の力を発揮しながら奮闘している企業がまだまだたくさんある。デザインにこだわったものづくりに取り組む県内企業にスポットを当てた連載企画「デザインのカー県内ものづくりの現場から」の第2シリーズとして紹介する。

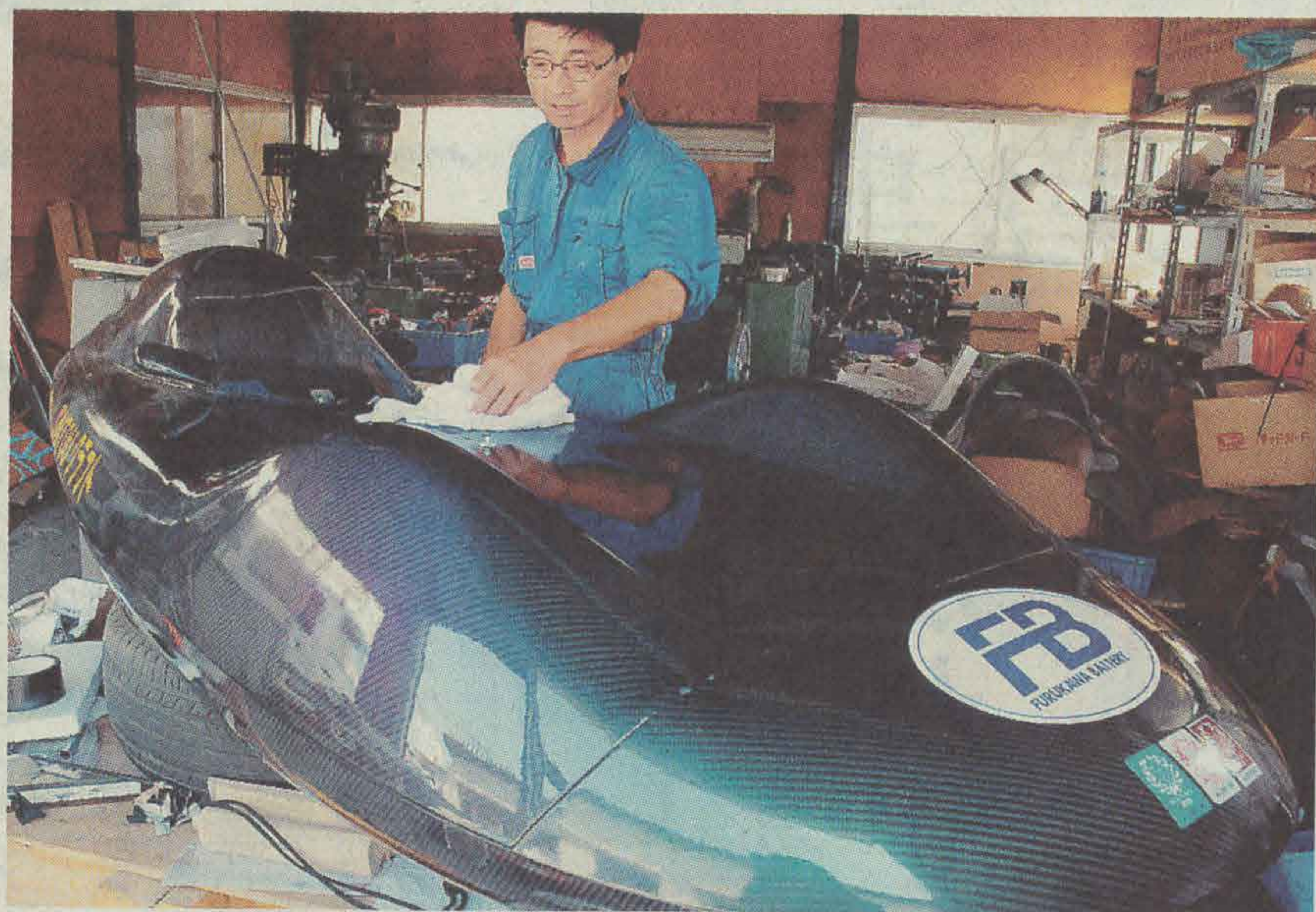
◇ 草原を駆けるチーター、海を泳ぐイルカ、大空を飛ぶタカ。それぞれの容姿は完ぺきなまでに美しい。「自動車、船、飛行機といった乗り物のデザインは、突き詰めれば生き物の姿にたどり着く気がする」。SAITOUクラフト（中山町）の斉藤秀雄社長（54）の持論だ。会社のガレージに置かれた競技用の電気自動車は肩甲骨を隆起させたネコ科の動物をほうふつとさせる。

本職は自動車の板金塗装。そ

デザインのカーの

県内ものづくりの現場から

① SAITOUクラフト（中山） 車体製作



SAITOUクラフトが製作する競技用電気自動車。流麗なボディーラインは大会で注目を集めている

＝中山町

「生物」のような容姿

の延長で培ったカーボン素材や繊維強化プラスチック（FRP）の成形技術に優れる。車体製作を手掛けた世界初のリチウムイオン電池の電気自動車「S3」は、2002年に本県で開催した全国都市緑化やまがたフェアの延長で培ったカーボン素材や繊維強化プラスチック（FRP）の成形技術に優れる。車体製作を手掛けた世界初のリチウムイオン電池の電気自動車「S3」は、2002年に本県で開催した全国都市緑化やまがたフェア

20位ぐらい。でも、優勝した車よりギャラリが集まる。見た目だけは速そうだし」。斉藤社長は笑う。

車体はデザイン性だけでなく空力の理にもかなう。大手自動車メーカーのように空洞実験を経て車体を仕上げていくからだ。個人レベルで実験装置を使用するのは困難だが、斉藤社長は空洞実験装置の製作者という一面も持つ。サッカーボールの「ぶれ球」を解析した瀬尾和哉山形大准教授をはじめ、スポーツ工学の研究を支えながら、デザインと機能性を両立させているのだ。

車の世界は電気自動車の方向に進んでいる。斉藤社長は、軽く、強度が高いカーボンボディの優位性に着目し、実用化も模索している。

優れた成形技術、機能性も追究